

東京都は16日、1人の女性が生涯に産む子どもの数を示す合計特殊出生率について、2015年の区市町村別の結果を公表した。東京23区で最も高かったのは港区の1.44で、市部でトップは東大和市の1.67だった。「1」の大台を割り込んだ自治体は23区と市部にはなかった。

厚生労働省が昨年12月に公表した人口動態統計（確定数）の結果に基づき、都が都内の自治体別の集計をまとめた。

都区市町村別の出生率

東京都内の区市の出生率ランキング
(2015年の合計特殊出生率。町村をのぞく)

	自治体	合計特殊出生率
▼上位5区市		
1	東大和市	1.67
2	小平市	1.46
3	日野市	1.45
4	港区	1.44
5	府中市	1.44
▼下位5区市		
1	豊島区	1.00
2	新宿区	1.02
3	中野区	1.03
4	目黒区	1.04
5	杉並区	1.04

港区
1.44
23区で最高

区別に合計特殊出生率をみると、23区では港区（1.42）が続いた。次に高かったのは中央区の1.43で、江戸川区の1.00で、新宿区が

ワースト2位だった。手厚い子育て支援事業を手掛ける都心区や、ファミリー向けマンションの開発が進む地域で伸びが目立つ。

市部では、東大和市の次に高かったのが小平市で、日野市が続いた。最も低かったのは青梅市（1.18）だった。

市区町村別の合計特殊出生率が伸びている背景

15年調査

東大和市、1.67で市首位

には出生数の増加がある。

15年の出生数は11万3194人で、前年比で2565人（2%）増えた。30〜40歳代の女性の出生数が伸びており、30歳代は4年連続で、40〜44歳は19年連続で増えた。出生数から死亡数を差し引いた自然増減数は1521人で、4年ぶりに増加した。

婚姻件数は167組増の8万7167組。離婚件数は482組増の2万4135組だった。